



### 3 中世の人々と信仰

武士の世である中世になると、銭の流通も全国に広がります。また、戦いに備えた城や館を構えます。

はじめに、主として置賜の城館から出土した陶磁器や木製の生活用具や中世の土器である「内耳埴」や「火鉢」を展示し、県内から出土した珠洲系陶器、そして、近世の始まりを告げる置賜の陶器の窯である戸長里窯跡の陶片を展示しています。

もう一つの柱である信仰に関わるものでは、火葬の普及とともに出土が多くなる「蔵骨器」としての陶器を展示し、壁面パネルで経塚を展示しています。また、経塚に関連し、近世になってから普及する「一字一石経」を展示し、このコーナーの最後として、中世に盛んになる「板碑」を展示しています。

まだの方、是非、展示をご覧くださいとともに、昨年度末に刊行しました「テーマ展ガイド」(B5判32p—頒価500円)をお求めいただきますようご案内いたします。

## 館事業報告

### 👤 第19期考古学セミナー終了

「木と生きる—弥生・古墳時代の木製品—」という企画展のテーマに沿ったセミナーが終了しました。多数の会員の方にも受講していただきました。

〈第1回〉9月24日(日)——受講者17名

「展示資料解説」 伊藤 純子 (当館職員)

「弥生・古墳時代の木製品の概要」 渋谷 孝雄 (当館館長)

〈第2回〉10月8日(日)——受講者15名

「仙台平野の弥生時代木製品が出土した遺跡」 荒井 格 (仙台市教育委員会)

「仙台平野の弥生時代の木製品」 荒井 格 (仙台市教育委員会)

〈第3回〉10月22日(日)——受講者16名

「服部・藤治屋敷遺跡の調査と古墳時代木製品」 高桑 弘美 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)

「板橋2遺跡の調査と古墳時代木製品」 齋藤 健 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)

### ♥ 勾玉・弓矢・石器、古代風ブレスレットをつくろう

5月20日、8月5日に続き、今年度最後の3回目となる勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくり、そして6月24日に続き2回目となる古代ブレスレットをつくろうが11月3日(金)文化の日に開催されました。

勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくりには延べ87名が、古代風ブレスレットづくりには18名の参加がありました。

## 📍企画展記念講演会から

平成 28 年 11 月 19 日(日)「実験で検証する弥生・古墳時代の木製品」

講師 山田 昌久氏 (首都大学東京教授)

講師の山田昌久先生は遺跡から出土する木製品研究の第一人者です。全国各地の各時代の出土木製品について指導なされると共に、木製品製作・使用の実験にも、豊富な経験をお持ちで、各地の博物館や資料館での展示資料作成の指導にも携わっておられます。

講演の最初は農具についてのお話でした。鍬の裏に付けた板は実験の結果「泥除け」としての効果が極めて大きいこと、しかし、従来考えられてきたその取付法では固定できず、実際は反対にする必要があることが判明したとのこと、また、そうすることにより、「泥除け」が「泥受け」にもなることが分かったということでした。そして、九州では東日本にはない中国から伝来した木組み技術が盛行するというお話がありました。

縄文時代の石の刃先、弥生時代の木の刃先と鉄の刃先、古墳時代の鉄の刃先を使った掘削実験では土質の違いや硬度の違いなど、いろんな条件下で実施し、その数値化を行ったとのことでした。一例を挙げるとクロボク土の掘削力は古墳時代の U 字鉄刃は弥生時代の方形鉄刃の 1.253 倍、木刃の 1.598 倍、縄文時代の石刃の 3.488 倍という結果が得られたとのことでした。

刈払具では縄文から古墳時代には木製の刈り取り具が使われたこと、柄の長くない鉄鎌は刈払用には不向きであることが実験で裏付けられたということでした。

休憩時に今回の企画展で展示している西沼田遺跡の紡織具の解説と渡辺淑恵さんによる機織りの実演と復元の根拠についての山田先生の解説が行われました。

後半は斧と木材加工についてのお話でした。弥生時代の鉄斧は石斧と同様柄の穴に差し込む方式で、古墳時代には柄の袋に斧を入れる方式が出現し、現在のように斧身に柄が差し込まれるのは古代以降とのことでした。弥生時代の木の伐採では奥に進むにつれて柄が邪魔になるため、切り口を大きくする必要があったということですが、この構造は楔割りの刃物としても使えたこと等の利点もあったということでした。そして、楔割り材の利用法、伐採後の森林の再生実験、人の関与による成長変化などのお話がありました。

日本では縄文時代には径 15 センチ以上のものは資源とはならなかったが、弥生以降は大径の針葉樹は楔割り製材、やがて中径の針葉樹は大鋸引き製材、広葉樹の小径木は丸木として使われるようになったということでした。言い換えれば弥生以降は資源を食いつぶす利用へと変化していくということでお話を締めくくられました。

まだまだ、お聞きしたいことが沢山ありました。続編の機会も設定したいと思います。

## ♥️ガラス玉をつくろう、編布をつくろう

6 月 17 日(土)に続き今年 2 回目が 12 月 2 日(土)に開催されました。三つの時間帯を設定して開催しましたが、各時間帯とも定員一杯となり、15 組 38 名の参加がありました。

しかし、編布をつくろうには残念ながら参加者がありませんでした。

### 館共催事業の報告

## 📍第ⅩⅡ期うきたむ学講座特別講座

開催期日 平成 29 年 10 月 29 日(日)

- 会場 南陽市えくぼプラザ 大会議室南  
講座 佐藤 鎮雄 氏（前山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長）  
講座①「置賜の前期古墳研究の課題－長岡地区古墳群の成立と展開をめぐって－」  
角田 朋行 氏（南陽市教育委員会社会教育課長補佐）  
講座②「南陽市長岡南森調査研究報告－南森古墳推定遺跡測量調査を終えて－」  
現地見学会 15：30～16：10  
受講者：17名  
佐藤、角田両先生の講義の後、雨の中現地で説明を受けました。

## 館共催事業の案内

### 🧠 2017年度山形の考古資料検討会のご案内

例年同様、今年度も山形考古学会と共催で開催いたします。今年度は国道113号線の高規格道路の建設に伴い(公財)山形県埋蔵文化財センターによって川西町で2遺跡の調査が行われ、米沢市では昨年度から継続の大規模発掘調査に加え、縄文中期末の大規模な集落遺跡の調査が実施されるなど、新たな資料が蓄積されてきています。

今年度は下記の要項で開催いたします。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

1. 事業名称 山形の考古資料検討会
2. 開催期日 平成29年2月5日（日）午後1時から午後4時30分
3. 開催趣旨 平成28年度に県内で行われた発掘調査やこれまでに発掘された資料について関心を高めるとともに、考古学の進展、文化財保護の気運の醸成をはかることをねらいとして開催するものである。
4. 会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. 主催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
6. 共催 山形考古学会
7. 内容

#### 【基調報告】（報告20分・質問5分）

「2017年県内の発掘調査の概要」

山形県教育庁文化財・生涯学習課 竹田純子 氏

#### 【調査報告】（順不同）（発表20分・質問5分）

「八幡西遺跡」（川西町） 山形県埋蔵文化財センター 菊池玄輝 氏

「花沢 a 遺跡」(米沢市)	米沢市教育委員会	佐藤智幸	氏
「大南遺跡」(米沢市)	米沢市教育委員会	佐藤公保	氏
「日向洞窟西地区遺跡」(高島町)	東北芸術工科大学	長井謙治	氏
「裏山 I 遺跡」(飯豊町)	飯豊町教育委員会	高橋 拓	氏

対 象：一般 50 名程度  
参加費：500 円

## 📍第 X II 期 うきたむ学講座のご案内

### 開催要綱

#### 1. 趣 旨

置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。

#### 2. 名 称 第 XII 期 うきたむ学講座 (第 1～3 回講座)

#### 3. 主 催 うきたむ学講座実行委員会

共 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

#### 4 講座内容

第 1 回講座 平成 30 年 1 月 14 日 (日) 13:30～16:10

「置賜で活躍した仏師たちー白鷹町の調査事例からー」

石井 紀子氏 (白鷹町地域おこし協力隊)

「置賜の仏像と醍醐寺の関係ー高島町・大聖寺を中心にー」

石井 智也 氏 (有限会社 東北古典彫刻修復研究所)

第 2 回講座 平成 30 年 2 月 17 日 (土) 13:30～15:30

「地域の歴史をつくるー『清水町の歴史とくらし』の刊行からー」

佐藤 庄一 氏 (山形考古学会会長)

第 3 回講座 平成 30 年 3 月 14 日 (日) 13:30～16:10

「犬の宮伝説ー村人を救った三毛犬 (ミッケ犬)、四毛犬 (シッケ犬) ー」

鳥海 隼夫 氏

「近世後期の米沢の文学」

石黒 志保 氏 (市立米沢図書館)

対 象：一般 50 名

参加費：600 円 (受講料)



平成 29 年度の入館者が平成 12 年度の 10,160 人を超え、11 月末日で 10,232 人に達しました。平成 5 年度の 15,379 人、平成 10 年度の 12,499 に次ぎ、過去 3 番目になることが確定しました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

# 東北情報館



## テーマ展 『古墳時代から中世の考古資料』

入館料 一般／200円 学生／100円 高校生以下／無料

12月9日～3月31日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



## コレクション展 『上杉家ゆかりの名品と

### 地域の歴史を語る資料』

入館料 一般／820円 高・大学生／510円 中・小学生／350円

10月28日～1月14日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



## 後期企画展 『秋田城と古代の窯』

入館料 一般／200円 高校生以下／無料

12月23日～2月4日 秋田県立博物館 TEL: 018-845-1837



## 企画展 『植物を編む—暮らしの中の編組—』

入館料 無料

12月2日～4月8日 秋田県立博物館 TEL: 018-873-4121



## 企画展 『被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み』

入館料 無料

12月16日～3月4日 福島県文化財センター(まほろん) TEL: 0248-21-0700



## 企画展 『“志波城前夜”の蝦夷社会

### 9世紀初頭以前の盛南地区』

入館料 一般／200円 小・中学生／100円

10月7日～1月21日 盛岡市遺跡の学び館 TEL: 019-635-6600